

**令和 6 年度 第 1 回釧路定住自立圏共生ビジョン懇談会
議事要旨**

日 時 令和 6 年 1 0 月 2 日（水）午後 2 時 0 0 分～午後 2 時 4 5 分
場 所 釧路市役所 本庁舎 2 階 第 1 委員会室
担当課係 都市経営課企画係

○：事務局	／	●：構成員
-------	---	-------

1 開会

2 釧路市総合政策部長 挨拶

3 構成員紹介

4 議事

（１）定住自立圏の概要について

○事務局から説明（資料 1）

●質疑応答なし

（２）令和 6 年度釧路定住自立圏共生ビジョン（素案）について

○事務局より説明（資料 2、3）

●釧路市と釧路町との連携について、随所に説明がされていたが、他の町村との取組に特徴はあるか。

○病児保育事業だと釧路市と釧路町との連携として、新たに追加された事業になり、それぞれの町村と相談をしながら、協定を結べるものについて、個別に協定を締結している。

今後、他の町でも取組に参加したいというように機運が高まれば、協定を結びなおす手続きとなる。

●病児保育事業について、利用料金を見ると協定を結んでいる市と釧路町は 1 日 2,000 円の負担とり、その他の地域は 3,000 円となっていたが、その他の地域はどこを想定されているのか。

○その他の地域については、基本的には釧路管内を想定しており、釧路市、

釧路町以外の管内の町村を想定している。また、根室管内からの利用も受け入れる用意はされている。

●釧路町の利用者は何人位いるのか。

○2022 年から施設ができており、令和 4 年度は全体で 30 名が利用しており、市外利用として白糠町、厚岸町民の 6 名の利用があった。令和 5 年度は全体で 58 名の利用があり、市外利用が 6 名で内訳としては、白糠町 2 名、厚岸町 3 名、釧路町 1 名となっている。今年度は 7 月末時点の状況として、全体 30 名の利用に対して、釧路町 7 名の利用がある。

●福祉的な観点から見ても良い事業だと思うので、定住自立圏構想の中でも周知に努めてもらいたい。白糠町や厚岸町の利用実績もあるのであれば、利用者の観点からだと、協定を結んで安く利用できる方が良いと考えるが、市から町村に打診を行うなど、手続きはどのように進めているのか。

○釧路町との協定は、釧路町から相談があったことによる。釧路町から相談を受けた際に、市の担当課から他の町村にも声かけを行ったが、現段階では釧路町との連携となっている。再度、担当課から町村に働きかけをしていくと伺っているので、町村の状況により必要があれば定住自立圏の枠組みに入れていくスキームになる。

●釧路市のどこで、こういった時間帯で病児保育を行っているのか。

○新栄町に施設があり、事前予約制で看護師が待機しており、子供の受け入れを行っている。

(3) 令和 7 年度からの新ビジョンについて

○事務局から説明（資料 4、5、6）

●新ビジョンの推計人口は減少傾向にあり、圏域の 2050 年の推計人口が 128,779 人となっているが、中心市である釧路市の推計人口は何人か。

○98,544 人と推計されている。

●浜中町への医師派遣の取組がなくなると説明があったが、他の町村に派遣の実績はあるのか。

- 各町の町立病院等については、大学病院などに派遣をお願いしており、色々と苦慮していると話は聞いている。
- 高齢化が進んでいる中で、釧路市の専門病院に通院されている状況があるので、市内の病院から医師を派遣できる体制ができると高齢者の方も助かると思う。
- 人口が減少していく一方で、高齢化率が上がっていき、急性期医療より、慢性期医療に近いような持病をお持ちの方が、複数の診療を受診の中で、地域の医療を維持していくことは大変な状況である。
町村でも大学病院とも連携して医師の確保を行っているが、市立病院も相当苦勞しながらも、札幌医科大学などから派遣に来ていただいているので、しっかりと医療環境を守っていかないとならない。
急性期医療は３次医療圏でドクターヘリも含めて対応できるが、普段の受診に関わる医師を確保することが課題と思っている。
定住自立圏の枠組みで医療を維持していくという部分もあるので、医師の確保は難しい問題もあるが、圏域の皆さんが安心して医療を受けられる体制をどう作っていくかが、大きな課題だと思っている。
- 高齢者が住めなくなるというか、町を出ていく理由の一つとなっている。
- 試行段階だが、遠隔医療により自宅で医者や看護師の診察を受けることができようになっている。釧路医師会でも町立の診療所の医師も加盟しているので、そういった場でもしっかりと議論したい。
- 高速道路の釧路中標津道路の記載について、旧ビジョンの基本目標は早期完成となっていて、新ビジョンでは早期完成から整備促進、調査促進になったのは、進捗が遅いからなどの理由があるのか。
- 各高速道路をつなげていくための期成会という組織があり、期成会の要望の文言と合わせた記載として整理している。
- 国では高速道路などで計画段階調査という調査事業があり、整備促進は広い範囲であるが、調査促進はより具体的な整備に向かったの調査を始めてほしいという意味合いがあるので、期成会では整備促進の他に一步踏み込んだ表現になっている。横断道が釧路西 IC まで繋がり、これからは釧路町から根室まで区間となり、釧路中標津道路による北網圏との連携として、整備路線としてしっかり取り組んでもらうことを管内を挙げて、あるいはオホーツク、根室を挙げて要望している段階なので、文言の整理を行って

いる。

5 その他

(1) 令和6年度釧路定住自立圏スケジュールについて

○事務局から説明（資料7）

●質疑応答なし

6 閉会